



スポーツとボランティア をつなぐマネジメント



【開催趣旨】

ボランティアは、「奉仕や有志」といったイメージから「新しい発見や学び」といった楽しみ体験の1つとして、そのイメージの広がりとともに活動の受け皿も多様化している。

スポーツボランティアの普及は、上記ボランティアイメージの広がりや、東京オリ・パラ大会で約11万人（大会ボランティア9万人、都市ボランティア3万人）を公募する話題と相まって、スポーツ政策（第2期スポーツ基本計画，2017）でもその促進策が明記されるなど、注目すべき課題といえよう。しかしながら、スポーツ政策等で示されるスポーツボランティアの普及策は、あくまでもスポーツボランティア団体間での連携・協働といった組織サイド（行政や中間支援組織）の視点に注視したものであり、生活者サイド（ボランティア個人）の自発的で自由な活動に注視したものとは言い難い。ボランティアが自発的な活動であることをふまえると、その活動をマネジメントするうえで参加者（生活者）の視点は欠かせない。とりわけ、ボランティアイメージの広がりや活動の受け皿が多様化するなかでスポーツボランティア活動の普及における契機を広げていくためには、スポーツボランティアと多様なボランティア活動の領域（例えば、災害、福祉、教育・文化の分野など）とを往還し、その活動を日常的に楽しむ存在としてスポーツボランティアを捉えることが必要ではないかと考える。ボランティア活動の1つであるスポーツボランティアは、スポーツ領域の内側と外側ではどのような見え方の違いがあるのか、また、スポーツ領域とそれ以外の活動領域とを自由に往還できるようなボランティア活動を実現できるマネジメント（コーディネート）とはどのような姿なのか。本研究集会では、基調講演において日本におけるボランティア・NPOの変遷からスポーツボランティアがどのように位置付けられるのかについて確認するとともに、その後のシンポジウムにおいてボランティアの主な対象とされる学生・女性・高齢者といった方々が実際にどのようなスポーツボランティア活動を実践しているのか、また、ボランティア活動を通じて多様な領域を往還できるコーディネートとはどのようなものなのか、各演者が取り組んでいる事例を紹介していただく。そして最終的には、参加者の皆様と共に、今後のスポーツボランティア普及における参加者（生活者）の視点に立ったボランティアコーディネートの重要性について議論を深めていきたい。

開催概要

■日時：2018年11月3日（土・祝） 13:00~17:00（受付：12:30~）

■会場：久留米大学 福岡サテライト（福岡天神エルガーラオフィス6階） QRコード→
<https://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/8/jobnavi-acros.html>

■参加費（資料代含む）：

一般会員：2000円／学生会員：1000円／一般非会員：3000円／学生非会員：2000円

■定員：70名

■主催：日本体育・スポーツ経営学会 ■共催：久留米大学人間健康学部

■後援：福岡県人づくり・県民生活部スポーツ振興課（予定）



氏（筑波大学／本学会会長）（13:00~13:15）

4:45）

、日本におけるボランティア・NPOの変遷と課題」

米大学）

-



- FAX : 0942-43-0574 TEL : 0942-43-4411 (久留米大学御井学舎代表)